



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	株式会社すみや電器本社新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------	-----	---	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2 /5		ふつう
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう
"すおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.8 /5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.2
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 事務所内の室内環境を向上させるために窓をLow-E複層ガラスとし、外皮に断熱材を施工することで断熱効果を高めました。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④</p>	<p>① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 敷地内に緑地帯を設け、景観の向上に配慮しました。</p>	<p>Q-3 1 3 3.2</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ZEBIに対応する省エネ設備を採用しました。</p>	<p>LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2</p>	<p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制</p>
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 汚染物質を含有した資材の使用を避け、環境に配慮した計画としました。</p>	<p>LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3</p>	<p>⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒</p>
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 敷地内に緑地帯を設け、景観の向上に配慮しました。</p>	<p>LR-3 1 2 2.2</p>	<p>⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>
"災害に強いすおか"の形成(Disaster)		
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 建築基準法+20%の耐震性を計画しました。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5</p>	<p>⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備</p>
"すおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 造成計画では駐車台数をなるべく多くとり、荷物を載せた大型車の動線や荷降ろしスペースに気を使うことで敷地にゆとりを持たせて周辺環境にも配慮しました。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由度</p>
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮) 街並みに配慮し、敷地境界にフェンス、屋外階段に目隠しルーバーを設置して景観に配慮した。</p>	<p>Q-3 3 3.1</p>	<p>⑳ 地域性への配慮、快適性の向上</p>
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 敷地内に緑地帯を設け、景観の向上に配慮しました。</p>	<p>Q-3 1 2 3 3.2</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出 ②② まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 敷地内に緑地帯を設け、景観の向上に配慮しました。</p>	<p>LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社すみや電器本社新築工事	階数	地上3F
建設地	静岡県静岡市葵区神明町71-1外18	構造	S造
用途地域	準工業地域・防火地域指定なし	平均居住人員	97 人
地域区分	7地域	年間使用時間	6,456 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年1月21日
敷地面積	5,697 m ²	作成者	増田 吉則
建築面積	2,515 m ²	確認日	
延床面積	5,766 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	63%
④上記+	63%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 立地条件を生かし、景観に配慮した立面計画としました。また、造成計画では駐車台数をなるべく多くとり、荷物を載せた大型車の動線や荷降ろしスペースに気を遣うことで敷地にゆとりを持たせて周辺環境にも配慮しました。		その他 0
これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境 事務所内の室内環境を向上させるために窓をLow-E複層ガラスとし、外皮に断熱材を施工することで断熱効果を高めました。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い内装材・配管材を採用しました。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に緑地帯を設け、景観の向上に配慮しました。
LR1 エネルギー ZEBIに対応する省エネ設備を採用しました。	LR2 資源・マテリアル 汚染物質を含有した資材の使用を避け、環境に配慮した計画としました。	LR3 敷地外環境 造成計画では駐車台数をなるべく多くとり、荷物を載せた大型車の動線や荷降ろしスペースに気を遣うことで敷地にゆとりを持たせて周辺環境にも配慮しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される